

平成22年度事務事業評価シート(平成21年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	07	項	01	目	04
事務事業名	観光宣伝事業								
担当部署	農林商工部観光物産課	505000	電話	0187-63-1111			内線	249	

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	03:活き活きと希望を持って活躍できるまちづくり
	施策の大綱	04:観光の振興
	施策	02:観光誘客の推進
	施策の内容	01:観光誘客体制の整備
根拠法令等		

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	大仙市への観光客の増加
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	県内外の観光客及び市内観光情報を必要とする市民、観光関連産業
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	①観光ガイドブックの増刷 ②秋田空港ロビー『電照型スクロール・スクリーン』掲出 ③ホームページのリニューアル ④観光案内板設置(市境)
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	観光ガイド・ホームページは、手軽な情報発信として必要であり、秋田空港ロビー『電照型スクロール・スクリーン』掲出と合わせ観光客の増大に繋がる。 市境歓迎案内板は、この地点から大仙市であることを観光客に明示し、また、位置確認を行うことができる。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成19年度	平成20年度	平成21年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 観光ガイド増刷部数	部	14,000	9,500	6,500
	② 市境観光案内板設置箇所	基	1	1	4
	③ 観光ガイド設置箇所数	箇所	65	63	68
成果 (事業の成果を測る)	① 観光客の入り込み	人	2,768,571	2,552,435	2,552,740
	② 市内宿泊者数	人	146,011	165,791	146,865
	③				
投入コスト	決算額		1,072千円	826千円	12,662千円
		一般財源	1,072千円	826千円	1,162千円
	人件費		1,427千円	1,427千円	2,114千円
		一般職員の年間従事人数	0.2人	0.2人	0.3人
		一般職員以外の年間従事人数	0.0人	0.0人	0.0人
総コスト	(決算額+人件費)	2,499千円	2,253千円	14,776千円	

事業を取り巻く環境	観光ガイドはインターネットにアクセスできない方に有効であるとともに、手軽な情報発信として今後も発行する必要があるが、作製して5年を経過することからリニューアルが必要である。 また、市のホームページで観光情報を提供しているが、どれ位のアクセスがあるかカウンターを設け、アクセス数の多い観光地を重点に環境整備等に力を入れていく必要がある。
-----------	--

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 事業の目的を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	観光ガイドの請求は多くあり、例年同様の増刷が必要である。また、インターネットから情報を入手できない方にとっては必須アイテムとなる。 観光案内板は、来訪者に「大仙市」の知名度アップとドライバーの目印として必要である。未設置箇所については、統一したデザインにより設置されることになる。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	B
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	B
	評価の理由	景気の低迷などにより市内観光客の入り込み数は減少しているが、観光PRは、ホームページの充実や観光ガイドの増刷と設置箇所を増やすことなどにより情報発信していくべきである。 市ホームページのリニューアルにより、見やすい(検索しやすい)構成にしなければならない。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	B
	評価の理由	観光振興を図るため、観光ガイド発行、インターネットでの観光情報発信は、観光PRには効率的手段である。 秋田空港ロビー『電照型スクロール・スクリーン』掲出は、これに係る費用を他の情報発信手段に切り替えが必要である。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)	
改善	A 現状のまま継続	観光ガイドのリニューアルについては、財政事情を考慮し一部広告料収入も検討する。 「大仙市観光振興計画」が策定され、花火と自然を背景に基本理念が定められていることから、この2つを基に市をイメージしたポスターの作製が急がれる。 地域を案内する(できる)人たちの把握に努め、交流観光の担い手になる人材・組織の育成に努める。
	B 改善しながら継続	
	C 拡大	
	D 縮小	
	E 廃止	